令和7年度　中核機能としての体制の確保に関する取組の実施状況

法人名	苫小牧市
事業所名	苫小牧市こども通園センターおおぞら園
住所	苫小牧市双葉町３丁目７番３号福祉ふれあいセンター内
連絡先	0144-34-5821
メールアドレス	hattatusien@city.tomakomai.hokkaido.jp

項番	４つの役割	中核的な役割を果たすための取組・体制等について
1	幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能 （専門的な発達支援及び家族支援を提供する体制）	【多職種連携による多角的な視点での療育の実施】 〇理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士、療育支援員、心理士などの多職種で構成される療育支援チームを編成し、個別担当者の視点だけではなく、多面的な角度から子どもの様子を整理し指導を実施。 【職員の資質向上のための研修会実施】 〇令和7年度は、岩城弘隆氏（医療法人社団玄洋会道央佐藤病院院長）、花香真亘氏（北海道立子ども総合医療・療育センター小児精神科医）、金井優実氏（北海道立子ども総合医療・療育センター公認心理師）、太田篤志氏（プレイジム代表・作業療法士）による研修会を実施。また、松山敏勝氏（整形外科医）、横井裕一郎氏（北海道文教大学教授・理学療法士）、北川可恵氏（北海道立心身障害者総合相談所言語聴覚士）、林英二氏（おおぞら園OJT研修事業講師）による事例検討会を実施。 【保護者支援のための研修会実施】 〇令和7年度は、南一也氏・福田眞弓氏・篠原千枝氏・奈良敏正氏（苫小牧市教育委員会指導室教育指導員）、横井裕一郎氏（北海道文教大学教授・理学療法士）、稲岡佳江氏（北海道自閉症協会苫小牧分会あじさいの会）による研修会を実施。 【ペアレントメンター事業の窓口設置】 〇北海道発達障害者支援センターあおいそらが中心となり行っている北海道ペアレントメンター派遣事業の連絡先窓口となり、ペアレントメンター事業の情報提供、日程調整、相談時の立会いを行い、ペアレントメンター事業による保護者支援に関わる一部業務を担う。

2	地域の障害児支援事業所へのスーパーバイズ・コンサルテーション機能 （他事業所等への助言・研修・相談対応）	【地域の事業所への研修会案内】 〇発達障がい研修会、苫小牧市障がい児療育研修会を計画し、関係機関に案内。令和7年度は、岩城弘隆氏（医療法人社団玄洋会道央佐藤病院院長）、金井優実氏（北海道立子ども総合医療・療育センター公認心理師）、花香真亘氏（北海道立子ども総合医療・療育センター小児精神科医）、太田篤志氏（プレイジム代表）を招いて研修会を実施。 【スーパーバイズコンサルテーション事業の整備】 〇事業所からの依頼に応じて巡回相談を行い、助言や相談に応じる体制を整えている。また、苫小牧地域児童通所支援事業所連絡協議会などで巡回相談のアナウンスをしている。令和7年度は5件実施。
3	地域のインクルージョン推進の中核機能 地域の保育所・学校等との連携、インクルーシブ教育推進	【地域の幼稚園・保育園・認定こども園・小学校への巡回相談】 〇市内の幼稚園・保育園・認定こども園・小学校から要請があれば、巡回スタッフが訪問し、園からの相談に応じる。巡回相談は、保護者の同意の有無にかかわらず、個人を特定せずに集団場面での助言を行う巡回Ａと、保護者の同意を得て行い、保護者の希望があれば保護者面談を行う巡回Ｂの２区分に分けられる。 〇令和7年度は巡回Ａの実施園が26園、巡回Ｂ対象児33人実施。 〇特別支援学校への巡回は、ＳＴによる巡回が1回、ＰＴによる巡回を2回実施。 【苫小牧市教育支援委員会への参加】 〇就学を迎える子どもたちが適切な学びの場に繋がるために必要な検討会議に教育支援委員として2名が参加。 【放課後児童クラブ要支援児童検討委員会に参加】 〇要支援児童の放課後児童クラブへの参加がよりスムーズに進むように施設より１名会議に参加。 【市民向け講座】発達につまずきや遅れのある幼児期の子どもへの関わり方について、広く市民が学ぶことのできる機会を提供し、市民への啓発を図ることを目的とする研修会の実施。林英二氏（おおぞら園OJT研修事業講師）
4	地域の発達支援の入り口としての相談機能 相談窓口の設置、初期相談、情報提供	【幼児期の子とその保護者への発達相談窓口】 〇令和7年度子ども発達相談件数　346件 【年度内6回通所可能の親子相談教室（にじいろ教室）】 〇利用者数　141人　　延利用回数　593回 【乳幼児健診時の子ども発達相談、なかよし教室（1歳6か月健診後の親子教室）への職員派遣】 健診後のフォローアップ教室、また、健診後の発達相談に心理士等派遣。